## 赤川先生の想い出

M(T) 常次正和

私が赤川研究室に入ったのは、蒸気工学に惹かれたからというよりは、ただただ自由闊達で楽しそうな研究室だという評判だったように思います。

そして評判通り、グランドでの野球やテニスなど、のびのびと楽しくさせて頂きましたが、 4年生の時には工学部が封鎖されるなど、十分な研究が出来なかったように思います。

その一方、私は工学部近くの一王山十善寺で部活の練習をしておりましたが、ある日、 赤川先生はじめ工学部の主だった先生方が、十善寺の中庭を歩いて帰って行かれる姿を拝 見しました。勝手な想像ですが、事態打開のための相談をされていたのではないかと直感 しました。学部が封鎖されていても、のほほんと部活をしている自分と、事態打開の為苦 労されている先生方の姿が自ずと比較され、帰って行かれる大きな背中の後ろ姿が頼もし く見えたのが印象に残っています。

また、プライベートな話になりますが、卒業後1年で結婚しました。その時、無理を承知でお願いした頼まれ仲人を快く引き受けて下さいました。結婚式は、乳飲み子の甥や姪が多く賑やかなというより騒々しいものでしたが、身に余る話もして頂きました。

以後、年賀状のやり取りは続けさせて頂きました。元気にされているものとばかり思っておりましたが、最近になって、療養生活をされているという話を聞きました。お見舞いにも行かず、不義理な教え子でしたが、ただただご冥福をお祈りするばかりです。

(終)

追悼文受付日: 平成28年(2016年)02月12日 赤川先生-1